

春風秋雨相

江利川毅 県立大理事長



誰もが長生きする社会になつた。平均寿命は男80・21歳、女86・61歳。「人生七十古来稀なり」といっが、現在では男性の8割、女性の9割が70歳を超え

る。介護難民、認知症などニュースでも超高齢社会に関する話題が多い。長くなった人生をどう生きるか、そして人生の終焉をどう迎えるか。これは個人にとつても、家族にとつても、また日本社会にとつても大きな課題である。

私は埼玉県立大学のほかに、非常勤で医療科学研究所(医研)の理事長をしている。医研の機関誌『医療と社会』の平成27年度第1号の特集は「人生の最期をどう生きるか、どう迎えるか、どう迎えるか」である。学問の立場、実践の立場、患者や地域

人生の最期を思う

の取り組みを一次予防として社会全体のシステムの中に組み込んでいくことが重要である。虚弱な期間におけるケアは「地域包括ケア」を基本に、30分程度で駆けつけられる日常生活単位の、各種の在宅サービスがシームレス(複数のサービスの統合して利用できること)に包括的に確保され、高齢者が住み慣れた地域で住み続けられるようにする。

に乳がんの告知を受け、不安や苦悩の中で闘病生活を続けつつ、記者として活躍している)の投稿要旨。務めを果たしたことになるのか。もしれないが、本人の苦しみを長引かせることになっている。患者の夫は尊厳ある死とは何か。大往生考」。

経験者に原稿を寄せていた。その中からごく一部を要約して紹介したい。

■地域包括ケア

辻哲夫氏(東京大学高齢社会総合研究機構特任教授。元厚生労働事務次官。地域包括ケア「柏プロジェクト」などを推進して

人が老いて死ぬことは治すことができない。その過程を病院

「地域包括ケア」を基本に、30分程度で駆けつけられる日常生活単位の、各種の在宅サービスがシームレス(複数のサービスの統合して利用できること)に包括的に確保され、高齢者が住み慣れた地域で住み続けられるようにする。

ガンと闘いながら強い意志を持って生き抜こうとしている人々を紹介しつつ、尊厳死の問題も提起している。交通事故で全身マヒになった人。人工呼吸器や胃ろうで、生きてはいるが意識疎通できない。唯一、動かせない。最初は感謝の言葉を綴ったが、2年9カ月後に「言葉」を取り戻す。最初は感謝の言葉を綴ったが、2年9カ月後に「言葉」を取り戻す。最初は感謝の言葉を綴ったが、2年9カ月後に「言葉」を取り戻す。

現代人は死をタブー視して、目の前の事態を回避することだけにこだわって、点滴や胃ろうを問いかけている。

大往生とは何か

目指すべきは高齢者が住み慣れた地域で住み続けられるようにすること。その基本はまず元気でできる限りの自立し続けられること。そのためには、生活習慣病対策が第一で、合わせて必要なのが介護予防。今後は運動、食事、社会参加の三つ

とはできない。その過程を病院でいたが、しばらくすると「死を待つておけばまだ生きられる」と思いつて、かえって苦しいこと

「地域包括ケア」を基本に、30分程度で駆けつけられる日常生活単位の、各種の在宅サービスがシームレス(複数のサービスの統合して利用できること)に包括的に確保され、高齢者が住み慣れた地域で住み続けられるようにする。

ガンと闘いながら強い意志を持って生き抜こうとしている人々を紹介しつつ、尊厳死の問題も提起している。交通事故で全身マヒになった人。人工呼吸器や胃ろうで、生きてはいるが意識疎通できない。唯一、動かせない。最初は感謝の言葉を綴ったが、2年9カ月後に「言葉」を取り戻す。最初は感謝の言葉を綴ったが、2年9カ月後に「言葉」を取り戻す。

現代人は死をタブー視して、目の前の事態を回避することだけにこだわって、点滴や胃ろうを問いかけている。

「地域包括ケア」を基本に、30分程度で駆けつけられる日常生活単位の、各種の在宅サービスがシームレス(複数のサービスの統合して利用できること)に包括的に確保され、高齢者が住み慣れた地域で住み続けられるようにする。

ガンと闘いながら強い意志を持って生き抜こうとしている人々を紹介しつつ、尊厳死の問題も提起している。交通事故で全身マヒになった人。人工呼吸器や胃ろうで、生きてはいるが意識疎通できない。唯一、動かせない。最初は感謝の言葉を綴ったが、2年9カ月後に「言葉」を取り戻す。最初は感謝の言葉を綴ったが、2年9カ月後に「言葉」を取り戻す。

現代人は死をタブー視して、目の前の事態を回避することだけにこだわって、点滴や胃ろうを問いかけている。

現代人は死をタブー視して、目の前の事態を回避することだけにこだわって、点滴や胃ろうを問いかけている。

現代人は死をタブー視して、目の前の事態を回避することだけにこだわって、点滴や胃ろうを問いかけている。